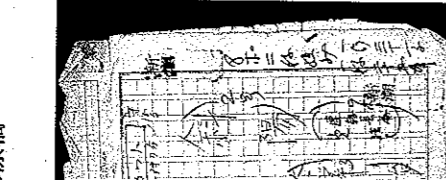


作家、太宰治(1909-48年)「写真」日本近代文学館蔵の代表作の一つ「斜陽」の連載最終回の冒頭の直筆原稿をはじめ、二葉亭四迷や島崎藤村の小説の原稿、石川啄木や菊池寛の手紙など約30点が、新潮社の「斜陽」原稿箱に収められていた(岩手県)

「斜陽」原稿箱に収められていた(岩手県)



# 「斜陽」の太宰 几帳面

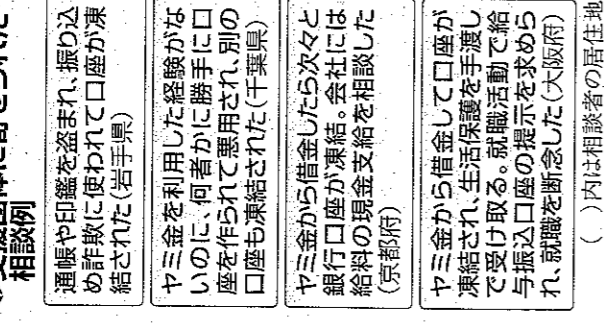
「斜陽」「人間失格」など並ぶ太宰治の著名な作品。単行本は1947年、新潮社から刊行。戦後の没落する上流階級を描き、「斜陽族」などの言葉も生み出した。太宰は本作出版の半年後に自殺した。

のはそのうちの4枚という。太宰には無頼派のイメージがあるが、「直治の遺書」と書かれた連載最終回の冒頭は、乱れない几帳面な字で書かれていた。原稿用紙の左上の欄外には印刷所に「早く送られたことを示す印もある。太宰は後にこの部分を

も伝わる。そのほか、「二葉亭四迷の小説『其面影』の草稿や、島崎藤村の短編小説『ある女の生涯』の全原稿、菊池寛が10年、後の出世となる戯曲『父帰る』の構想を芥川龍之介や久米正雄に伝えた手紙や、夏目漱石のはがきなどもあった。

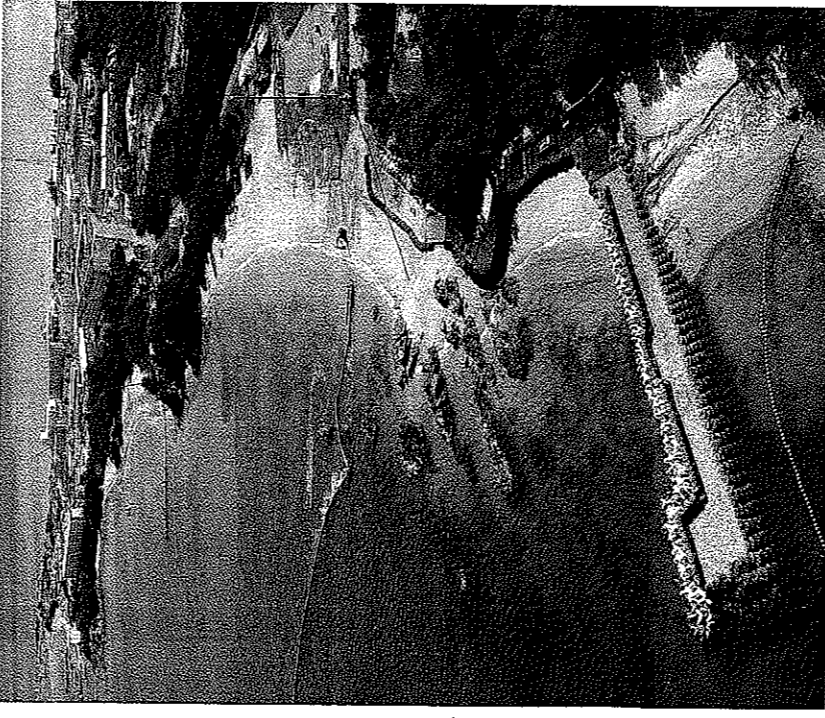
政府は4月25日、埋め立て区域の北側で護岸建設を開始。護岸は海岸から沖合に向け約100延びている。政府は工事を加速させるため、大型船を護岸に接岸して海上から石材などを大量に搬入することを計画。埋め立て区域の南西側では、資材を搬入するため、

「ヤミ金融に手を出した後、めだきはあがるが、口座を取り上げられたのは納得できない」。東京都新宿区の男性(29)は不機嫌な表情でこう語った。男性は2011年夏、生活に困ってヤミ金融業者から5万円を借りたが、振り込みを受けた口座が約1か月後、突然使用できなくなった。別の銀行に口座を開き、すぐに使えなくなり、銀行では「ヤミ金融業者が不正使用する口座の疑いがある」と告げられた。男性は警察に「自分は金を借りただけと訴えたが、口座がヤミ金融に使われた事実は変わらない」として



「リストに5万人」  
警察庁が09年1月から運用する「凍結口座名義人リスト」にはヤミ金融や特殊詐欺に使われた疑いがあるとして、警察が各金融機関に凍結を依頼した口座の名義人情報が掲載されている。7月末時点の掲載者は約5万8000人になる。リストは月2回、同行から全国銀行協会などに提供され、加盟行で共有。全銀協は「リストの活用は各行が個別に判断する」としているが、「なぐさ会」ではリスト掲載者の口座は凍結され、新規開設も拒まれていくとみている。

同会は昨年10月、不正目的がないと確認できればリスト掲載者でも口座開設に応じるよう、警察庁や全銀協などに要請した。全銀協は「不正利用を検証して凍結すること」と加盟行に通知。警察庁は取材に「犯罪と無関係だと明らかになれば、警察署の判断でリストから外す」と回答しているが、同会は「凍結や解除の基準が明確でない。各行任せのままでは現状は何も変わっていない」と批判する。沼沢英道・元常磐大学長(被害者学)は、「被害者救済の道を開いた振のり込み詐欺救済法の意義は大きい。が、口座凍結などの判断が事実上、警察に委ねられているのは危険。リスト掲載や凍結が適正かどうかを検証する不服申し立て機関などの救済制度が必要だ」と指摘している。



普天間飛行場の移設地で行われている護岸工事の着手から25日。建設された護岸(下)が海に向かって延びていく。上は米軍キャンプ・シチュワブ(24日午後、沖縄県名護市で)＝坂山康成撮影

## 辺野古護岸 工事進む 着手から半年

沖縄県の米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画で、政府が移設先の護岸工事に着手してから25日で半年を迎える。現場海域では一部の護岸が沖合に向かって延びるなど、工事が進んでいる様子が確認された。

# あなたが、あなたの疲れには、どのアリナミン? 方へ。

こえたいに。

カラダが だるい・重いと 感じる疲れに。

毎日感じる その疲れに。

目・肩・腰にまで 疲れを感じたら。

目・肩・腰、さらに首すじまで 疲れを感じたら。



亀屋万年堂  
ふっくら福笑み  
0120-08-1307 9:00~18:00

# ヤミ金融から口座凍結

## 不正使用 警察に疑われ

ヤミ金融から借金しただけでなく、金融機関から口座を凍結され、新規開設もできなくなるケースが相次いでいる。口座が犯罪に使われたと警察からみなされたことが理由とみられる。弁護士らで作る支援団体は、警察庁や全国銀行協会などに、口座凍結の基準や運用の見直しを要請している。

### 支援団体 銀行に運用改善要請

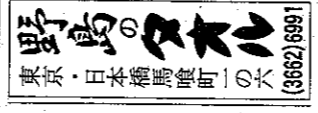
「生活に制約」  
「ヤミ金融に手を出した後、めだきはあがるが、口座を取り上げられたのは納得できない」。東京都新宿区の男性(29)は不機嫌な表情でこう語った。男性は2011年夏、生活に困ってヤミ金融業者から5万円を借りたが、振り込みを受けた口座が約1か月後、突然使用できなくなった。別の銀行に口座を開き、すぐに使えなくなり、銀行では「ヤミ金融業者が不正使用する口座の疑いがある」と告げられた。男性は警察に「自分は金を借りただけと訴えたが、口座がヤミ金融に使われた事実は変わらない」として

などを理由に融資を受けられなくなり、廃業状態に。今年7月に開設できなくなるまで約6年間、凍結状態が続き、「生活が厳しく制約された」と振り返る。男性が相談した弁護士と司法書士計約100人で作る「大阪クセサウ・貧困被害者なぐさ会」(大阪市)によると、ヤミ金融業者は近年、自らの口座の凍結を避けるため、「返済金」を別の借り主の口座に「貸付金」として直接振り込ませるなど、顧客同士で金やりとりさせるという。男性が借りた5万円も別の借り主から直接振り込まれており、男性の口座がヤミ金融の「貸付金回収用口座」と警察にみなされた可能性がある。

口座凍結は、08年に施行された「振り込み詐欺救済法」などに基づいて行われている措置。警察などが金融機関に情報を提供し、金融機関は犯罪で使われた疑いがある口座を凍結する仕組みだ。凍結した口座の残金は、被害者に分配される。同会では昨年10月から1年で口座凍結の相談が全国から計7万件寄せられた。車上荒らしにあつて通帳を盗まれた後、凍結された「誰かに勝手に口座を作られた」との相談もあるという。

「リストに5万人」  
警察庁が09年1月から運用する「凍結口座名義人リスト」にはヤミ金融や特殊詐欺に使われた疑いがあるとして、警察が各金融機関に凍結を依頼した口座の名義人情報が掲載されている。7月末時点の掲載者は約5万8000人になる。リストは月2回、同行から全国銀行協会などに提供され、加盟行で共有。全銀協は「リストの活用は各行が個別に判断する」としているが、「なぐさ会」ではリスト掲載者の口座は凍結され、新規開設も拒まれていくとみている。

同会では昨年10月、不正目的がないと確認できればリスト掲載者でも口座開設に応じるよう、警察庁や全銀協などに要請した。全銀協は「不正利用を検証して凍結すること」と加盟行に通知。警察庁は取材に「犯罪と無関係だと明らかになれば、警察署の判断でリストから外す」と回答しているが、同会は「凍結や解除の基準が明確でない。各行任せのままでは現状は何も変わっていない」と批判する。沼沢英道・元常磐大学長(被害者学)は、「被害者救済の道を開いた振のり込み詐欺救済法の意義は大きい。が、口座凍結などの判断が事実上、警察に委ねられているのは危険。リスト掲載や凍結が適正かどうかを検証する不服申し立て機関などの救済制度が必要だ」と指摘している。



野馬のタマ  
東京・日本橋馬喰町一丁目  
03-5621-6991